

「品質保証に係る顧問会」(第一回)議事録(要旨)

1. 日 時 : 平成16年4月19日(月) 13:30 ~ 16:30
2. 場 所 : 日本原燃(株)東京事務所(物産ビル別館 7階)
3. 出席者
 - (1) 顧 問 : 高橋八戸工業大学学長
猪原大阪電気通信大学教授
新堀東北大学助教授
小林日本航空(株)総合安全推進室副室長
今井住友化学工業(株)レスポンシブルケア室品質保証担当部長
 - (2) 日本原燃 : 佐々木社長、猪股副社長、平田再処理事業部長
(同席者) 磯部安全技術室担任、谷濃縮事業部長、峰松建設試運転事務所長
松尾経営企画室担任、木村埋設事業部長
青柳建設試運転事務所技術部長
(事務局) 齋川品質保証準備室長、尾川品質保証準備室副室長
新沢品質保証準備室部長、中村品質保証準備室副部長
4. 議事要旨
 - (1) 開会挨拶・出席者紹介
日本原燃より、開会挨拶と出席者の紹介を行った。
 - (2) 社長挨拶
佐々木社長より、顧問会の開催にあたり、品質保証の強化の背景及び顧問会へのお願い等を含め挨拶した。
 - (3) 主査の選任
日本原燃社内の「品質保証に係る顧問会運営要則」に従い、猪原委員の推薦、各委員の賛同により、高橋委員が主査に選任された。
以下、主査により議事進行。
 - (4) 「品質保証に係る顧問会」設置の主旨
日本原燃より、「品質保証に係る顧問会」の目的、進め方等について説明を行い了承された。
 - (5) 日本原燃の事業の概況について
日本原燃より、会社組織並びにウラン濃縮工場、低レベル放射性廃棄物埋設センター、再処理工場他の現状について説明を行った。

- (6) 品質保証体制の点検結果及び改善策について
日本原燃より、品質保証体制の改善に至った経緯、改善策等について説明を行った。
- (7) 品質目標について
日本原燃より、保安活動に関する品質保証要求事項、品質目標の考え方及び各事業部、各室の平成16年度品質目標について説明を行った。
- (8) ウラン試験計画について
日本原燃より、ウラン試験の内容について説明を行った。
- (9) 次回の予定
次回は7月～8月頃に開催することとした(場所は六ヶ所)。

5. 主なアドバイス他

- (1) 航空機の例では、たとえ欠陥が無いとしても定期的に検査を実施している。再処理施設での検査の考え方はどうか。
回答:再処理施設においては設備を重要度に応じグレード分けしており、重要度に応じたメンテプログラムがある。メンテプログラムは点検頻度、手法、点検結果等により必要に応じ変更可能なものである。
- (2) 今回の改善策は立派なシステムである。実現するためにはシステム面、管理技術面の充実が重要であり、「どうしたら事故が起こせるか」という目で見てみると良い。
- (3) 社長の品質目標の設定要否については、JEACの品質方針の記載に照らして十分検討のこと。また、各室、各事業部の品質目標が社長の品質方針とどう対応するのか明確にすること。
- (4) 航空機業界では、ヒヤリハット事例の紹介が効果を上げている。日本原燃においても社内の仕組みとして定着し、品質・安全に活かそうという運動はあるのか。
回答:労働災害防止運動の中で取り入れ、活動している。
- (5) 再処理事業部の品質保証展開図では、部門の品質方針が経営トップと離れたところであり、社長の意思が伝わらないのではないかと心配する。品質保証展開図の内容を見直すことを検討して欲しい。
- (6) ウラン試験段階は不具合を発見するのが目的の一つであり、不具合を出すこともあることを一般社会に強く説明しておくべき。
- (7) 今回の品質保証体制の改善には実施事項が多くあり、良くフォローして行く必要がある。顧問会開催頻度を上げ、今後、具体的な実施内容について協議したい。

以上

